

肝炎医療Co これだけは！

① 肝炎について

- 肝炎について無料で相談できる肝疾患診療連携拠点病院は全国各地道府県にそれぞれ一か所以上ある
- B型肝炎やC型肝炎、NASHは肝硬変・肝がんの原因となる
- 肝炎ウイルス検査を受けないとB型肝炎、C型肝炎に感染しているかはわからない
- 肝疾患は、自覚症状に乏しく、症状に気づいた時には悪化している可能性がある
- 肝炎の人は発癌のリスクがあるので定期的なエコー検査が必要である

② B型肝炎について

- B型肝炎は予防接種を行うことで感染を予防することができる
- 感染経路は母子感染、血液、体液等で感染するので、かみそりや、歯ブラシの共有や入れ墨、ピアスの針の共有は避ける
- B型肝炎はウイルスの増殖を抑える治療があるが、完全にウイルスを排除することはできない(2022年現在)
- B型肝炎は、肝硬変を経ずに肝がんとなることがあり、たとえキャリアでも定期的なエコー検査が必要である

③ C型肝炎について

- C型肝炎は、飲み薬の治療によって約99%ウイルスを排除できる
- 感染経路は血液(体液)で感染するので、かみそりや、歯ブラシの共有や入れ墨、ピアスの針の共有は避ける
- ウイルス排除後も傷んだ肝臓からの肝がん発症のリスクはすぐにゼロにならないため、継続的なエコー検査が必要である
- ウイルス排除後でもHCV抗体は陽性のままである

④ 肝硬変について

- 肝硬変は特に症状が出ていない時期を(代償性肝硬変)、症状が現れた時を(非代償性肝硬変)と分類する
- 肝硬変の症状は、羽ばたき振戦、肝性脳症、女性化乳房、腹壁静脈怒張、クモ状血管腫、腹水、黄疸、こむら返り等がある
- 便秘は肝性脳症の原因となるので注意が必要

⑤ 肝がんについて

- 肝がんの原因はC型肝炎由来の発症が一番多く、最近では、非ウイルス性の肝がんも増加してきている
- 肝がんの治療は癌のステージングと、肝予備能 (child-Pugh分類) で選択する
- ウイルス性肝炎由来の肝臓がんの治療には、医療費助成制度がある

⑥ 血液検査について

- ウイルス性肝炎に感染しているかの検査はHBs抗原、HCV抗体を測定する
- 通常の健康診断で行う血液検査の項目には肝炎ウイルス検査は入っていない
- 初回に受ける肝炎ウイルス検査は無料でできる制度がある

⑦ 治療費の助成制度について

- 医療費助成制度は都道府県ごとに制度の違いがあるため、各自自治体や保健所等に確認する
- 肝炎に関する助成制度は、ウイルス性肝炎によるものに限られる

⑧ 生活について

(感染)

- ウイルス性肝炎は血液、体液に気をつければ、必要以上に感染を心配する必要はない
- 蚊に刺される事ではB型肝炎やC型肝炎には感染しない

(食事)

- ウイルス性肝炎の人と同じ食卓を囲んでも感染はしない

(仕事)

- 肝炎、肝硬変、肝がんと診断されても、治療と仕事を両立できる支援や仕組みがある

⑨ 患者会

- 患者さんでも肝炎医療Coとして活躍している方もいる
- 患者会が行っている相談窓口がある
- ウイルス性肝炎が感染症であるため、偏見や差別を受け、苦しんでいる患者さんもいる

⑩ NAFLD

- 生活習慣病との関連性が強く、進行すると、肝硬変や肝がんに移行する
- 病態を改善するにはまずは、生活習慣の改善が必要である
- 生活習慣病が疑われる患者さんにはまず、腹部エコー検査をすすめる

⑪ アルコール性肝疾患

- 飲酒量をドリンク換算にて把握する
- アルコールは肝臓以外にも、脳や神経、がん等の病気も引き起こす
- 断酒がどうしても難しい場合でも、徐々にアルコール量を減らす節酒(減酒)という方法もある
- 断酒、節酒が進まない場合には、精神科医との連携も重要である

⑫ 肝移植

- 肝移植には脳死ドナーと生体ドナーの2種類がある

